

## 平成 20 年度事業報告

### i. 概況

一昨年のサブプライムローン問題を契機にアメリカ経済が減速し、日本においても内需にかげりが見え、輸出も減少、景気後退局面を迎えていく中で平成 20 年度がスタートした。年度前半徐々に減速した景気は、平成 20 年 9 月のアメリカ大手金融機関の破綻以降、急激に厳しさが増した。国内では、大規模な雇用調整、株安などの影響から金融面の硬直化などが顕著に表れた。さらに、アメリカ、欧州、アジアをはじめ世界規模となった経済の悪化は多くの産業におよび、深刻化、長期化の様相を呈するなど想定以上の景況に苦しめられる 1 年であった。

個人消費も実質賃金の減少や将来不安から購買力が著しく低下し、ジュエリー市場は、ダイヤモンド、色石、真珠、貴金属の本数、金額すべてが前年を下回った。高額商品の買い控え、催事での販売の激減、比較的好調とされた海外ブランド品も落ち込むなどで、需要の大きかった年末のクリスマス商戦すら散々な結果となった。こうした要因から、平成 20 年（暦年）の年間ジュエリー小売市場規模は、対前年 11.8%ダウンの 9,970 億円（JJA 推計）と 1 兆円を下回るまで減少した。

一方、JJA は消費者からの「信頼」と消費者の「満足」をキーワードにして業界全体の活性化に主眼を置き活動を展開した。重点事業としての、①公益法人化については、新法に基づく公益法人への移行申請を目標に掲げ、事業内容、組織、新新会計への対応などを協議した。しかし、年度内の申請には至らなかった。申請は JJA として相応しい方向を慎重に見極めるとし、次年度以降も検討を続けることとした。②消費者の信頼獲得を目的とした事業者向けの「JJA 信頼のマーク」制度は、当該年度に発足（平成 20 年 5 月）させることができた。事業者の自助努力を促しながらモラルの向上に努め健全な業界の形成に寄与するものであると信じている。さらに新しい試みとして、③広報活動の一元化を謳い限られた予算で、JJA として統一されたコンセプトに基づく PR 活動を展開した。広報の範囲は業界紙のみならずマスメディアにもおよび、多くの消費者に JJA の活動を知っていただけたと評価している。なお、平成 20 年は、JJA 設立 20 周年に当たる年であることから、④記念事業として記念式典、祝賀会を開催（平成 20 年 6 月）した、また、20 年記念誌を発行（平成 20 年 7 月）した。多くの来賓から祝福、励ましの言葉を戴いた。その他、従来からの継続事業である JC 検定試験、ジュエリーデザインアワード、JJF・IJT 展示会開催、国際交流等については、概ね当初の計画通り遂行された。

### ii. 各事業

#### 1. 公益社団法人への移行

新法人（公益社団法人または一般社団法人）への移行に関しては、しばらくの間は他法人の移行結果を見て JJA として相応しい方向を決定するため次年度も継続審議する。申請の時期については、他団体の状況を見て慎重に時期を見極めることとした。

#### 2. 信頼のマーク制度の発足

5 月 22 日に「JJA 信頼のマーク」制度を発足し申込み受付を開始した。JJF の会場にて説

明会開催、一般紙への周知広告掲載、プレゼントパブリシティの展開等を行ない、平成21年3月末現在「信頼のマーク」認定店は78社346店舗となった。

### 3. 調査広報関係

JJA全体の広報活動を一元管理し、合理的かつ有効な活動を行った。また、調査関係は例年通り実施した。

- (1) JJA レポート年4回(第71号~74号)発行
- (2) 定期業況調査年4回実施
- (3) 2008年ジュエリー小売市場調査の実施
- (4) JJA ホームページの運営管理
- (5) ニュースリリース配信10件、取材対応13件、記事掲載16件
- (6) プレスセミナー1回実施
- (7) その他では「協会案内」作成、JJA ファクトブックの作成、広告掲載

### 4. 国内関係機関との協力

宝石の定義等に関する宝石鑑別団体協議会との会議において、規定上の情報開示に関する事項8件を審議した。その他、財団法人日本規格協会との請負契約に基づき、ISO/TC174(ジュエリー)の国際規格に関する照会1件、原案1件に対する国際規格回答原案調査を行った。

### 5. 国際交流関係

日本のジュエリーに関する規定やガイドライン等をCIBJO等の国際機関に伝えた。また、販路拡大に注力した海外展示会へ参加や国際協調としての海外団体との情報交換を活発に行った。

- (1) 2008年4月14~16日、CIBJO2008年82回総会(UAE ドバイ)に日本代表を派遣した。CIBJO ブルーブックについては、ダイヤモンド、色石、真珠、貴金属について関係するJJA分科会にて審議を継続している。
- (2) 2008年8月7日~11日インド国際宝飾展(ムンバイ)、日本パビリオンに参加、日本からJJA会員6社が参加出展した。
- (3) タイ国政府商務省輸出振興局(DEP)、タイ宝石・宝飾品貿易協会(TGJTA)、日本色石プロモーションコミッティ(JCP)による色石プロモーション・セミナーに関し大枠について合意し調印を行った。
- (4) 国際交流として、各国大使館や団体などとの会談を7件行った。

### 6. ジュエリーの啓蒙

ジュエリーの啓蒙活動として下記を実施した。

- (1) ジャパン・ジュエリー・フェスティバル
  - ① ジャパン・ジュエリー・フェア2008開催、会期2008年8月27~29日、出展社数 448社(国内347社、海外11社)、来場者数 15,968名。
  - ② ジュエリーデザインアワード受賞作品61作品の展示コーナーをJJF特別イベントゾーン内に設置し、表彰式を行った。
  - ③ イヤージュエリーは「ダイヤモンド」に決定し、41点のイヤージュエリーをJJF会場に展示した。
- (2) 第20回国際宝飾展を開催した。概要は、会期2009年1月21~24日、参加国36カ国、出展者数1,509社(国内984社、国外525社)、来場者数37,936名。

(3) ジュエリーデーキャンペーンの実施

特別な日ジュエリーデーの認知を広めるため、プレゼントパブリシティ企画を実施した。実施期間 2008 年 10～12 月、プレゼント ダイヤモンドの「アイ・ジュエル」を抽選で合計 21 名に贈呈、応募総数 約 10,000 通。なお、当キャンペーン活動に対し、団体・賛助会員より協賛金総計 42 万円の協力をいただいた。

(4) ジュエリーデザインアワードの実施

JJA ジュエリーデザインアワードは、毎年開催となり 5 回目、205 作品の応募作品が集まり、61 作品の入賞作品が選ばれた。

7. 技術関連

技能者の能力向上・育成のための活動、ジュエリー用語事典の普及、貴金属の表示法の整備、品位マーク関連の品位検査を実施した。

(1) 中央職業能力開発協会主催の貴金属装身具製作技能検定を支援した。

(2) 技能検定 3 級の新設のための職業能力開発専門調査委員会（厚生労働省内）に委員を推薦した。平成 22 年度から実施される見込み。

(3) 中央職業能力開発協会主催の第 46 回技能五輪全国大会を支援した。

(4) 中央職業能力開発協会ほかの主催による技能グランプリを支援した。

(5) 平成 19 年度技能検定学科問題の解説集を編集発行した。

(6) 「ジュエリー用語事典」を昨年に引き続き販売した。

(7) 貴金属の表示法を整備し、「ジュエリー及び貴金属製品の素材等の表示規定」の冊子を発行し、JJA 会員及び団体会員等に 3,000 部を配布した。また、同規定のセミナーを、JJF の会場のほか、東京、名古屋、大阪、広島、新潟、甲府において延べ 9 回開催した。聴講者延べ 300 名。

(8) 造幣局の見学会を、東京支局で 7 回、大阪本局で 3 回開催した、合計 82 名が参加した。

(9) 市場の製品の品位検査を 2 回実施した。品位において国内生産品はおおむね基準に合格していた。また、表示者の製品についても品位検査を実施した。

8. ジュエリーコーディネーター資格制度

人材育成事業の一環としてジュエリーコーディネーター資格付与事業を下記の通り実施した。

(1) 検定試験の実施

平成 20 年 3 月 9 日に東京、大阪に於いて JC 検定 3 級（第 16 回）試験を実施、平成 20 年 8 月 6 日に東京、名古屋、大阪、福岡に於いて JC 検定 1 級 1 次（第 4 回）、2 級（第 10 回）、3 級（第 17 回）の試験を実施した。

(2) テキストの販売

2 級テキスト 408 冊、3 級テキスト 2,604 冊を販売した。

(3) 通信講座

学校法人産業能率大学に委託実施の JC3 級通信講座は、今期 197 名が受講した。

(4) ジュエリーコーディネーター誌の発刊

JC 誌第 41 号（6 月）9,800 部、JC 誌第 42 号（9 月）10,300 部、JC 誌第 43 号（12 月）10,050 部、JC 誌第 44 号（3 月）9,900 部を発刊し JJA 会員及び JC 資格登録者に配布した。

(5) 講習会の開催

6 月に「接客セミナー」、8 月に「JC の為のカラーアカデミー」講習会、11 月に(株)ミ

キモト装身具様の協力で「工場見学会」を実施した。

(6) 更新講習会の開催及び更新の促進

5月から6月に掛けて東京で2回、大阪で1回行った、受講者323名。9月に東京で3回、大阪2回、11月に東京で2回行った、受講者276名。更新課題提出者は158名であった。

(7) JC バッジのデザイン変更

デザイン選定会(11月26日)を経て、新デザインのJC バッジを内定した。

9. 消費者関連

JJA お客様相談室に、消費者をはじめ、会員、非会員、マスコミ関係などから延べ408件の相談や問い合わせがあった。重要な内容については、JJA レポートやホームページ、JC 誌に事例報告を行った。また、社会貢献活動として「JJA チャイルドピンズ運動」を全国94社118事業所にて展開した。総額3,106,702円の募金が寄せられ、(社)日本ユネスコ協会連盟の「世界寺子屋運動」へ全額寄付した。

10. JJA20周年記念事業

2008年6月4日に上野精養軒で20周年記念式典及び祝賀会を開催した。参加者は、ご来賓78名、正会員84名、計162名であった。会場では、経済産業大臣表彰を始め会長感謝状、会長表彰等が54名9団体に授与された。その他、記念誌を7月に発行(1,800部)し関係各位に配布した。

11. PL 注意表示シール関連

PL 注意表示シールについては、96万枚(No.4が93万枚、No.5が3万枚)を販売した。